

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0171100308), 法人名 (有限会社 アクティブサービス), 事業所名 (グループホーム向陽台 3F たけのこ), 所在地 (千歳市白樺2丁目1番1号), 自己評価作成日 (令和3年11月26日), 評価結果市町村受理日 (令和4年2月14日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・日常、入居者の要望や意向を取り入れた生活を心掛ける一方で、入居者に役割を持って頂き共に生活をするホームを意識した支援を行っています。
・ご家族と良好な信頼関係作りを行ない、行事などで間接的に参加して頂きながら入居者が家族と繋がる場面作りも行っています。
・四季を感じられるよう、壁の装飾を行ったり、行事やレクリエーションを取り入れています。
・職員はシフトに捉われない、常に入居者主体の行動姿勢で支援しております。
・入居者の認知症状をそのまま受け入れ、状態に合わせた対応を行ないながら、進行予防の為に職員同士アイデアを出し合い実践しています。
・先輩職員から適切な指導を受け、新人職員でも不安なくケアを行なうことが出来ています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0171100308-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和4年1月18日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は千歳市郊外に位置し、バス停からも近く、コンビニ、公園、行政機関等があり、利便性に優れている。コロナ禍により地域交流は自粛状態だが、町内会とは例年相互の行事等で交流があり、良好な関係にある。運営理念は「信頼・自由・尊重」を根幹とし、利用者の状態に応じたケアに取り組んでいる。自由な外出や馴染みの方々との面会に制限がある中で、職員の提案で家族からビデオメッセージや手紙が利用者に届いている。また、「行ったつもり旅行」と銘打って、利用者が居住していた地域の映像を流し、職員がその地に因んだ仮装をして盛り上げ、駅弁風の食事を提供している。フロアで夏祭りやバーベキュー、運動会を企画し、駐車場で開催しているような演出で、利用者が楽しんでいる様子が事業所便りから垣間見られる。運営推進会議録の中でも、推進委員である地域住民、行政、家族から、事業所への理解と運営の向上に繋がる意見が多く出されている。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が共有出来るように廊下に掲示しています、理念全てを実践に繋げているかは、時間を優先することもあり、入居者主体で行えない事もある。	職員は向上心を持ち、利用者を全面的に支えることを主旨とした理念を事業所の要所に掲示し、さらに事業所便りにも掲載して内外に基本姿勢を示している。会議等で理念の実践を確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍の為、地域との交流は少なかった。ワクチン接種後は日常的な交流まではいかないが、感染予防を行いながら地域との繋がりを行なえる様に努めている。	理念の中でも地域との共生を謳っているが、コロナ禍により自粛状況にある。地域の情報は、回覧板や運営推進会議に参加の住民から得られている。例年は、駐車場を神輿の休憩所に提供するなど、地域とは良好な関係にある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為、地域の方々との交流が難しく行っていないが、感染予防として事業者が取り組んでいる事や、認知症の方が感染症を予防する困難さなどを地域に向けて伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を行なっているが、コロナ感染症予防の為、書面での報告になってしまうことが多かった。ホーム内で開催した時には、活動内容や感染予防の取り組みなどを伝えている。	運営推進会議は、状況に応じて書面や対面で行い、活動状況や事故報告、感染症対策と現状等を報告し、推進委員からの疑問点や意見、情報等を受けとめ、運営に生かせるよう努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現状報告を行ったり、困難事例などを伝え解決に向けて相談、協力をして頂ける関係作りを行なっています。	地域包括職員とは、運営推進会議で事業所の状況を伝え助言を得ている。事故報告は、管理者が担当窓口を訪れ、その後に電話で意見交換が行われている。ケースワーカー来所時は、情報交換があり、利用者の安定した生活に繋げている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について内部・外部での研修は行っていないが、資料を配布し内容の理解を求めている。拘束は行われていないが、職員の理解の差があるように感じている。	身体拘束廃止に向けた指針に沿って、適正化委員会を定期的開催している。コロナ禍により通常の研修会に代えてユニット会議等で、適切なケアが行われているか事例をもとに話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について研修は行っていないが、資料配布をして理解を求めている。虐待の行為は見られていないが、職員の理解の差があるように感じている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新しい職員も多く、権利擁護の制度に関しては現在利用されている方もいない為、触れることがなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に書面、口頭で説明し、契約後に不安を抱かない様納得をして頂き署名、捺印を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や定期的に用紙を送付し意見、要望を伝えられるようにしている。出された意見、要望を反映できるよう対応している。	利用者や家族から運営への要望が出された時には、出来る限り応えることを基本としている。毎月の事業所便りは、写真やコメントで日常や行事の内容等が掲載され、さらに居室担当者から個別にメッセージで様子を報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に会議を開催し、職員からの意見や提案を聞き、反映している。	代表者は職員からの意見を傾聴し、運営の充実に生かしている。換気機能付きのエアコンを導入するなど環境整備に努めている。管理者やリーダーも、職員の力量が発揮できる業務体制を整備している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員不足など改善されていない事もあるが、状況を把握し、環境整備を行なってくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナの為、内外部の研修は行えていないが、研修を受けられる体制はある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの為、他事業者との交流は少なかったが、オンラインやメールで情報交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に情報収集を行い、本人の困っている事や不安に思っている事を解消出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族等から不安や要望を聞き取り、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族と必要としている支援を把握し、提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ひとり一人に役割を持って頂けるよう働きかけ、関係性を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話等で近況を伝え、共に支えていける関係作りを行なっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの為、馴染みの場所などに行くことに制限があったが、電話等で対応を行い関係を途切れないように支援している。	コロナ禍により家族との面会は、スクリーン越しやオンライン等で行ったり電話を活用するなど、相互に安心が得られる支援に取り組んでいる。利用者の居住地であった地域の映像に利用者は思いを馳せている。利用者の要望で自宅の玄関先まで同行支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しそうな方には職員が間に入り関わりを持てるように働きかけを行い、行事やレクリエーションを通じて入居者同士の交流を行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後は関係機関との情報交換を行い、可能な限り対応に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを通じて本人の思いや意向を把握出来るように努めている。	職員は、コミュニケーション能力を高め言葉やしぐさ、家族からの情報等を把握している。さらに各種記録簿から利用者の意向を推し量り、状況によってはケアプランに反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族、入居前のサービス提供者より情報を聞き取り、生活歴やこれまでの経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の生活パターンや体調面、出来る事出来ない事など把握出来るように職員間で情報を共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の申し送りや会議、カンファレンス等で意見交換を行い、本人の為にどうしたら良いのか提案し合いながら介護計画書を作成している。	ケアプラン更新時は、情報を蓄積したフェイスシートや3ヶ月ごとのモニタリング、6ヶ月ごとのアセスメント、日々の介護記録等を参考にしている。利用者や家族の意向が反映された支援目標になるよう職員間で討議している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録や口頭での申し送りで情報を共有し実践に活かせるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の為に良いサービスが受けられるよう、柔軟な対応が出来る体制作りが出来ている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の医療機関や町内会などを活用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を受診できるよう支援している。	医療機関の選択肢は利用者や家族にあるが、大部分の利用者は、月2回協力医による往診を受けている。かかりつけ医への外来受診は、家族の協力を得ながら職員が支援している。診療結果は家族と共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	判断に困った時など、都度協力病院に確認し、適切な指示をいただき対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、病院やご家族と話し合いの場を設け早期に退院や転院などが行なえる様、その時々に合わせて対応が出来るよう取り組んでいる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームで出来る事、出来ないことを説明し、ご家族、病院と話し合いを設け、今後の方向性を決めるよう努めている。	入居時に重度化や終末期に対する指針を説明し、同意を得ている。これまで看取りケアの経験はないが、現在、利用者や家族の意向を受けとめ、職員全員で医療関係者のバックアップの下、最終ケアに臨んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ユニット内にマニュアルを置き、冷静に判断し実践が出来るよう促している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防避難訓練を行い、落ち着いた対応が出来るように促している。	感染症予防対策により、日中・夜間の火災発生を想定した自主避難訓練を実施している。緊急連絡網により地域住民の協力が得られ、災害時における備蓄品や生活用品等も用意し、非常時に備えている。	訓練は全員参加としており、安全に避難誘導できる取り組みが行われているが、さらに自然災害や、入浴時等様々なケア場面での対処法など、多角的な視点での避難方法の取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間の声のトーンや言葉遣いに工夫を行い、プライバシーを確保出来るよう対応を心掛けている。	理念の一節に「人としての尊厳と尊重」を掲げており、職員はケアの根幹としている。ミーティング時は個人名を出さない、入浴時は同性介助の要望に沿うなど、適切なケアの実践に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一方的にならないように働きかけ、思いや希望を自己決定出来るよう対応をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り、本人の希望に添える様、業務の調整を行いながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着る服を一緒に選んだり、毎月1回、理美容の日を設け、おしゃれを楽しめるよう、支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取り入れたり、好みの物を提供し食事を楽しんで頂いている。また女性の入居者の方には食事の準備や調理、盛り付け、片付けを一緒に行なっている。	献立は、利用者と一緒にチラシや料理本を見ながら要望に応じている。食事作りも、利用者がおにぎりを握って得意分野を発揮したり、職員も駅弁やキャラ弁を作るなど、工夫を凝らしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事形態を工夫し、刻み食やミキサー食など対応している。水分量も適量摂取出来るように、時間で誘導し摂取を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアを促している。個々の力量に合わせてブラッシングやうがいなど声かけを行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、可能な限りトイレで排泄が出来るよう支援している。オムツを使用している方には時間で交換を行っている。	利用者の状態により、声かけや誘導を行いトイレでの排泄支援に努めている。ポータブルトイレの活用やベッド上での交換などもあるが、尊厳に配慮して支援している。衛生用品は職員間で検討し、利用者や家族の同意を得て使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便チェックを行い、下剤のみに頼らず、乳製品や野菜ジュースなどを取り入れ、スムーズな排便を促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の希望に添うように、職員同士協力し合い、他の業務を調整しながら支援している。	入浴は、利用者の体調等に配慮し、二人介助や足湯にシャワー浴、清拭を行い、利用者のできない部分を補いながら、週2回を基本として支援している。入浴中は利用者の歌や本音が聴かれ、介護記録簿に記載している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人が安心して入眠出来るよう、環境や音などを配慮して支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルに薬情を添付し、確認できるようにしている。薬の変更があった時には服薬後の体調の変化など観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じて役割の分担を行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの為、外出の頻度は少ないが、近隣を散歩したり少人数でドライブなどに出かけている。	コロナ禍の中でも感染症予防対策に配慮し、周辺の散歩、中庭の桜見物、涼を求めて近くの公園へ、暖かくなってから敷地内でラジオ体操、ドライブ等で気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からお小遣いを預かり管理している。買い物時の支払いを介助で行える体制は出来ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の対応は希望があれば行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた装飾を行ったりし、共有スペースが居心地良く過ごせるよう、工夫を行なっている。	ゆとりある共用空間は、換気機能付きのエアコンを設置するなど、快適な住環境作りに配慮している。行事ごとに利用者と一緒に作成した飾り付けを行い、バーベキューやミニ夏祭り、運動会などもリビングを利用して、利用者の活性化に繋げている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルの配置など工夫し、共有空間でもゆとりと過ごせるよう工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある物を持ち込んで頂き、本人が安心して生活出来るよう働きかけている。	居室にはクローゼットやチェスト等が設置されている。ソファや冷蔵庫、仏壇、家族写真、趣味のハーモニカ等が持ち込まれている。動線確保のため、利用者と相談して家具を移動することもある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や居室の入り口に手すりを付けたり、場所がわかりやすいように案内板を付けるなど環境整備を行ない、自立した生活を促している。		